

新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設 事業市民説明会 (1回目)	日時	令和5年10月31日(火) 19:00~21:30	場所	市民会館 萌え木ホール
説明者	白井市長、高橋庁舎建設等担当部長、前島庁舎建設等担当課長、笹栗福祉会館建設等担当課長、田中公共施設マネジメント推進担当課長、富田企画政策課長			
事務局	企画政策課 福井主査、奥主査、中島係長、斉藤主任 (受託者) 株式会社佐藤総合計画			
参加者数	70人(うち市議会議員12人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設事業について 4 質疑応答 5 閉会			
(進行: 企画政策課主査)				
<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>3 新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設事業について (1)これまでの経過、(4)検証結果に基づく設計見直し、(5)再開方針案について、前島庁舎建設等担当課長が説明を行い、(2)現設計、(3)現設計の検証結果について、株式会社佐藤総合計画が説明を行った。</p> <p>4 質疑応答 (市民A)</p> <p>設計案は北側に広場があり、広場の利用者と駐車場が近いのでぶつかる危険がある。住宅でも南側に庭を作るのが普通だと思う。子供が安全に過ごせる広場なのか疑問がある。 また、検証が①～⑨までしかない理由を教えてください。</p> <p>(庁舎建設等担当課長)</p> <p>→検証項目は、前市長時代に議会と協議の場を設け、いろいろな意見を頂き、コストダウンにつながるかどうかという視点で建物について①～⑧までの項目として整理していたが、市長辞職により協議が終了してしまった。今回、再開に当たり、議会より、協議会で出ているものについて、コストダウンにつながるか検証を行ってからその後を判断するというので、検証を行った。</p> <p>施設配置については、建設計画調査を行い、施設の配置、規模を決めている。日影規制があり、建物の高さ規制があるため、建物を南側に寄せて配置しており、その関係で北側に広場を配置している。広場利用者の安全性については、今後検討したい。</p> <p>(市民B)</p> <p>市庁舎は免震構造、福祉会館が耐震構造となっているが、3億円増額しても福祉会館を免震構造とした方がよい。福祉会館の安全性に加え、庁舎と福祉会館が異なることに対する気持ちの問題もある。コストが問題であれば庁舎も耐震構造としては。</p> <p>(庁舎建設等担当課長)</p> <p>→市民の利用が多い施設は、耐震強度1.25倍の地震に強い構造とするが、現在設計している福祉会館は1.5倍として、庁舎と同じ耐震強度を確保している。設計ではコストも大事であり、他の公共施設を見ても庁舎以外を免震構造としている例は少ない。コストに加え、市内の他の公共施設の耐震性と整合性や、耐震強度を1.5倍に上げていることを考えると、耐震構造を採用するのは妥当だと考える。</p> <p>(佐藤総合計画)</p> <p>→多くの公共施設は耐震構造。耐震構造でも免震構造でも、耐震強度は変わらない。</p> <p>耐震構造と免震構造の違いは揺れの小ささ。最近の庁舎を免震構造としているのは、災害対策本部があり、地震後も機能継続するため。一方、福祉会館等の公共建築は余震が止まるまでサービスを停止するので、耐震としている例が多い。</p>				

(市民C)

当初は敷地内に清掃関連施設がある前提でL字型に建物を配置して、福祉会館を先行オープンさせる計画であった。清掃施設が無くなって前提条件が変わったのに、現在の設計のまま進めるのはおかしい。なぜ見直さないのか。議会ではコストが減り、南側に 3,000 m<sup>2</sup>の広場が確保され、工期も短くなる案が出されている。

(庁舎建設等担当課長)

→議会で見直し案が出されているが、前提条件の見直しを提起した1つの案と受け止めている。

しかし、条件を変更して再設計をするとなると、基本設計前まで立ち戻ることになる。これまでプロポーザル等の手続きを踏んで、公平に決めてきたので、同様の手続きを踏むことが公平性・透明性の観点から必要であり、見直し案を採用することはできない。

(市民D)

市長の説明は高く評価するが、市側の説明は数字、略語、英語が多くて分からない。「検討中」といったあいまいな発言はやめた方が良い。

(市民E)

2か月間で、600万円を使って検証を行っているがその意図は何か。また、設計者はコンペ時、基本設計時、実施設計時に、工事費をいくらで設計して欲しいと依頼があったのか。また、9項目の検証に対して、設計者としてオリジナルの提案はあったか。

(市長)

→6月議会で、実施設計再開の予算を提出したが、議会にて、9項目について検証することを内容とした議決があった。市として、この結果を受け止め、検証を行った。

(佐藤総合計画)

→工事費は聞いている。また、さまざまな条件、要望を市と打合せを行いながら設計を行っている。設計事務所から、与条件に対して勝手に提案をするということはない。

(市民F)

なぜ複雑な構造とするのか。清掃関連施設の前提条件が変わったので、1つの建物にシンプルにした方が良い。見直し案はコストが減り、南側に 3,000 m<sup>2</sup>の広場が確保され、工期も短くなると聞く。

(市長)

→基本構想を策定し、基本設計で市民ワークショップなどの市民参画、実施設計とプロセスを経て、議会の議決を受け、民主的手続きを経て進めている。

やり直すとなると、条件を変えることになり、プロポーザルから始める必要があり時間がかかる。基本構想からプロポーザルまで7年もかかった。これまでの民主的手続きを尊重したい。早期実現を目指して、現在の設計で実施設計を進めていきたいと思っている。見直し案という熟度の違うものと比較できないし、そこに立ち戻るのは小金井市政が停滞する原因となる。

(市民G)

1月1日に市報で、市長はこの難局を乗り切るためには、思い切った決断を行ったりあらゆる手法を駆使して取り組むことが重要と述べている。一度決めたからと、市民の意見を聞き流すのはおかしい。安く安全でシンプルに作る方が良い。

町会のイベント等でも今の広場を利用している。ぜひ 3,000 m<sup>2</sup>の広場を検討して欲しい。

(市長)

→一度決めたことを、全く意見を聞かずに進めるということではない。

6月議会では、議会から、9つの項目について検証することの議決がされ、これを受け止めて、検証を

行った。検証の結果によっては、設計内容を変更する覚悟も持ちながら行った。

広場については、緑の広場の面積は狭くなるが駐車場も一体として使ってイベントを行う運用も考えている。

(庁舎建設等担当部長)

→3,000 m<sup>2</sup>の広場を作るのは難しいと考えている。基本設計時から実施設計の段階で、パブコメの意見を取り入れて、広場を増やした設計とした経緯がある。現在の設計では840 m<sup>2</sup>の面積があるが更に広げられないか検討している。

(市民H)

子育て世代の立場から、広場は現設計の位置が良い。南側に広場を作ると、暑い時期の6か月間は、暑すぎて、人がいない広場になる。子供を連れて行くには、南側の広場は良くない。また、広場が北側だと子どもは電車が見え喜ぶ。

(市長)

→電車については、福祉会館3階の屋上から電車が見える計画となっている。

(市民I)

新庁舎は、現庁舎の位置から東側に移転するが、出張所を西側にも作って欲しい。

(庁舎建設等担当部長)

→現在、出張所を作る計画はない。

今後、手続きは、マイナンバーカードを利用したコンビニサービスなどを拡充していくことになると考えている。

(市民J)

庁舎の屋上も広場として使えるようにして、庁舎屋上を保育園の運動会で使えるような方法も検討できないか。

(庁舎建設等担当課長)

→庁舎屋上は機械設備置場で使っていて、広場として使うことは難しい。

(市民K)

民主主義のプロセスを続けていけば無限に案は出てくるし、資材も日々高騰しているので、一刻も早く着工してほしい。再開設計のスケジュールは9か月～14か月というが、もっと短くならないか。また、プロポーザル時の設計者の提案を公開しているか教えて欲しい。

(佐藤総合計画)

→構造に関わらないトイレのレイアウトなどの見直しがあり、18,000 m<sup>2</sup>ある建物なので、図面修正、積算行っていくことを考えると妥当な設計期間だと考える。

(企画政策課主査)

→プロポーザル時の提案や結果は市のHPに掲載している。

(市民L)

現行案はプロポーザル等の適正な手続きを経て、市民の意見を踏まえたものであり、設計の見直しをすると、とても時間がかかるので現行案で進めてもらいたい。

本庁舎はかなり古くなっており、トイレは床が抜けたり、使いたくない古さ。防災の拠点となっているが不安がある。障がい者差別解消法で、合理的配慮が義務化されるが、本庁舎の議会も傍聴ができないので、一刻も早く新しい庁舎を建てて欲しい。

(市民M)

実施設計概要版が本日HPに掲載されたが、市民に対しての説明が少ない。国分寺市の説明会ではオンライン中継や録画配信も行っている。市民に対しての周知と意見聴取の仕方は検討して欲しい。

また、環境配慮計画は太陽光発電設備が80kW→30kWになったり、福祉会館屋上庭園が人工芝になるなど、世の流れに逆行していると思う。国などで決められたランクを達成するように努力して欲しい。

(市長)

→市民への情報提供が十分できていなかった部分があると反省しており、今後の方法は検討したい。環境面についてはできることを考えたいと思う。

(市民N)

見直し案を検証しないのはおかしい。

(庁舎建設等担当課長)

→見直し案は、詳細な設計がされておらず、アイデアレベルのもの。個別具体的に比較するものではない。適正なプロセスを経ていない案を検討するというのは、透明性、公平性から逸脱するので、市で検討することにはならない。

(市長)

→実施設計検証については、議会の議決内容に基づき、検証項目を検証している現設計案を基本として進め、見直すことは考えていない。

(市民O)

暫定広場は一時なもので、庁舎建設のための土地だと理解している。現設計で進めて欲しい。

職員が安全安心な庁舎で、能力が発揮できるためにも早急に建設を進めて欲しい。また、小金井市で、市民の意見が100%盛り込まれて設計された公共施設というのではないのではないか。

(庁舎建設等担当課長)

→100%盛り込まれた施設はないと思う。庁舎建設は市民ワークショップ等で、市民の意見をもらいながら、一番良い選択をしてきたと思う。

(市民P)

設計者はL字型の建物を手掛けた実績はあるか。設計者が手掛けなくても、関東で複雑な形状の庁舎というのはあるのか。前例の少ないものは失敗する可能性があるのでは、見直した方がよい。

(庁舎建設等担当課長)

→事例については後日回答する。構造安全性について、構造計算を行い、大臣認定も取得していることは安心できる。

(市民Q)

障害者利用を踏まえ、福祉会館も免震建物として欲しい。

(庁舎建設等担当課長)

→検証の結果、総免震は採用しないと判断した。

(市民R)

市役所へのアクセスは重要であり、駐車場や駐輪場を少なくして広場を広げるというのは本末転倒。現庁舎の台数との比較を教えて欲しい。

(庁舎建設等担当課長)

→建設計画調査では、現在の庁舎の台数や付置義務台数、他市状況等を参考に、駐車場126台+駐輪場400台と算定した。

実施設計においては、広場を広げて欲しいというパブリックコメントの要望が多かったため駐車場を減らし、駐車場 109 台+駐輪場 450 台としている。

(市民 S)

L字型で建物が重なっているうえ、免震と耐震が潜り込んでクロスしている。大地震時に不具合がないか心配がある。

(庁舎建設等担当課長)

→構造計算を行い、大きな地震に耐えられるか計算をしている。さらに、構造計算結果は、国土交通大臣の認定を取得しており、安全に利用いただける。また、L字型の接合部分は、エキスパンションジョイントで動くようになっているので、注意喚起表示をする。

重ね合わせることによって想定範囲内の地震で壊れてしまうということはない。

(市民 T)

竣工が遅れる場合、第二庁舎のリース代が更にかかることになる。今まで第二庁舎のリースで支払った額を教えて欲しい。また、福社会館が閉じている間の損失について教えて欲しい。

新庁舎のアクセスについてバリアフリーの観点から説明して欲しい。

(市長)

→第二庁舎のリース費は駐車場と合わせて、年間 2.6 億円程度かかる。これまで 30 年近く借りており、合計すると 71 億円払っている。

福社会館閉鎖の損失は金額換算できないが、不便の声は多数聞いており、福社会館が閉鎖したことで、活動停止した団体が 4 団体あった。

新庁舎へのアクセス方法だが、ココバスは敷地へ直接乗り入れる計画はなく、今後の課題と認識している。

5 閉会

— 以上で、閉会 —